

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	データ活用による八戸市のプロモーションについて	八戸市
アイデア名 (注1) (公開)	観光客増加民泊プロジェクト		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	H C 2 2		
チーム属性 (公開)	<input type="checkbox"/> 1. 市民によるチーム	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 学生によるチーム	<input type="checkbox"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	6 名		
代表者情報	氏名 (公開)	渡辺 大智	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

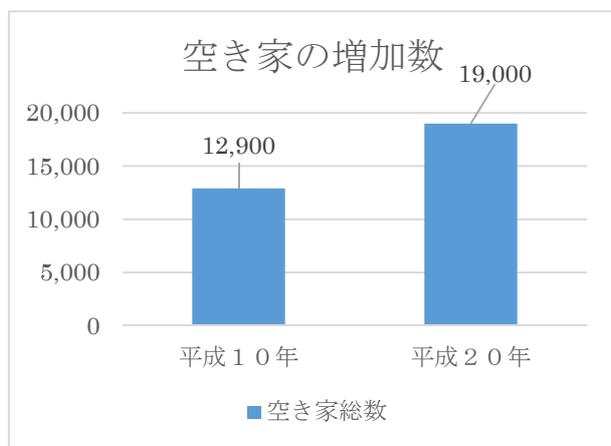
（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

### （1）アイデアの内容（公開）

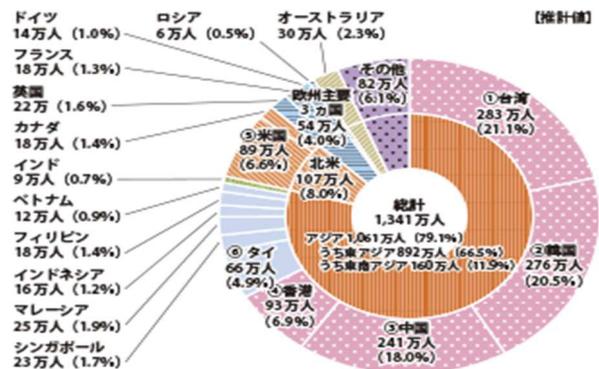
アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて内容そのものをわかりやすく示してください。1 ページ以内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

私たちは、八戸の空き家の数が増加していること、多言語表記が少なく外国人が不便に感じていることの二つに注目した。統計を調べてみると、空き家の増加については過去 10 年で 1.5 倍に上昇し、原因として空き家の活用方法が見つからない、人口減少や日本では空き家を取り壊さないで残しておいたほうが得な制度があるからである。このままいと空き家の数が増え続け、犯罪に利用される可能性もある。

そこで、空き家を一つの場所に集約・リノベーションし、宿泊施設を作り、日本人はもちろん外国人を始めとした観光客を呼び込む。



参考文献) 小林真,八戸圏域における人口減少の現状と取り組み,  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000304457.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000304457.pdf),2017-12-1.



(注) 1 ( ) 内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア  
 2 その他には、アジア、欧州等各地域の国であっても記載のない国・地域が含まれる。  
 3 数値は、それぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは合致しない場合がある。  
 資料) 日本政府観光局 (JNTO) 資料より観光庁作成

参考文献) 国土交通省観光庁 平成 27 年版観光白書。

また、右上の資料より東北地域へ来訪した外国人旅行者の推移から台湾が一番多く、次いで韓国・中国・香港となっている。主にアジアからの旅行者が多いことが分かった。そのため、宿泊施設で外国人が快適に過ごし、その場所で不便に感じさせない方法を考える必要がある。そこで私たちが考えた案は 3 つだ。

1. 宿泊施設到北京語・中国語・ハングル語・英語の 4 つの言語表記が可能なタブレット端末を導入する。
2. 外国語を話せるスタッフを配置する。
3. 外国人向け地図記号が表記された地図を配布する。

次に、八戸の魅力を発信するために、宿泊施設内のレストランに八戸の特産品を使った料理を提供する。例として、せんべい汁・いかめし・いちご煮・サバの味噌煮などを食事のメニューに加える。また、八戸の文化に触れることができる郷土文化施設で、えんぶりの舞の披露、郷土料理体験教室や三社大祭のお囃子を体験できるような楽しいイベントを月替わりで行うことができる複合施設を新たに開設する。さらに、体験ツアーも企画したいと考えている。内容としては小さい子供でも楽しめる <sup>えんぶり</sup> 帆の烏帽子づくり。八食センターに行き、店内にある加賀商店で 1 5 0 円の丼飯を購入する。そして店内の市場を回り、マグロ・イクラ・イカ・ウニなどの好きな海産物をのせて自分オリジナルの「のつけ丼」を作って食べるなどである。よって、継続的に観光客を呼び込むとともに、リピーターが増えることにもつながる。

## (2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

1つ目の空き家の数が増加していることの解決策として注目したのが青森県田子町にある『タブコブ創遊村』である。



写真提供) 田子町観光協会

### 放置された空き家の問題点

- ごみが集まる。
- 室内が不衛生になる。
- 異臭を放つ。
- 不審者の侵入
- 放火等の危険

田子町の100年ぐらい前の農村生活空間を再現・保存の目的で構築されたものです。手作りの面白さ、昔遊びの再認識などもでき楽しく過ごすことができます。このような観光施設を参考にし、外国人への待遇や空き家の持ち主の思いも視野に入れながら取り組みたい。しかし、問題視すべき点が3点あります。1点目は空き家を再生するときにかかる費用についてである。

リノベーションの場合（132㎡40坪）→約300万～2000万 期間→約4～5ヵ月



差額 約1185万

建て替えの場合（132㎡40坪）→約1000万～4000万 期間→約4～6ヵ月

上記のリノベーション工事最低価格300万円の資金をどのように調達するのか、2点目は時間の経過とともに老朽化して危険になるということ、3点目は空き家の持ち主からどのようなメリットで家を提供してもらうのかである。

また、右上の資料にもあるように管理不全な「放置された空き家」は火災や衛生上の問題があり、また2014年に埼玉で空き家が大麻工場に利用されていたというニュースもあった。このように空き家は犯罪にも使われるケースがあるためリノベーションをして無人にしないことは防犯にもつながる。

さらに青森県の空き家率ランキングを見ると県庁所在地の青森市に次いで5位となっている。

青森県の空き家率ランキング ※全国平均13.3% 県平均12.9%

順位	市名	空き家率 (%)	人口 (人)	街レビュー
1	三沢市	20.0	43,515	交通に不便はないが在日米軍三沢基地が近いので騒音がひどい
2	十和田市	16.9	68,807	自然が多く、雪が少ない。レジャー施設が少ない。
3	むつ市	16.3	67,521	海が近いので、魚介類がおいしい。娯楽施設がない。
4	青森市	15.4	315,870	飲食店が多い。雪が多く、積もると不便。
5	八戸市	15.4	249,115	大型ショッピングモールが多い。公共交通機関の利便性が低い。

上の表から県平均が12.9%なのに対して八戸市の空き家率が15.4%と高い水準になっている。青森県全体を見ても八戸市は空き家率が高いことが伺える。従って、空き家を再生するためのコストを最小限にし、八戸の空き家を減らさないことには根本的な問題解決にはならない。

2つ目に注目した外国人が日本旅行中に不便に思ったことについて調べてみると「地方」ほど言葉が通じにくい、外国語の案内表示が少ない・行くまでの移動時間が長い・交通の便が悪いので旅程が組みにくいなどが上位に挙げられた。このように私たちが住む青森県のような地方は外国人観光客を集客するためのデメリットが多いことが分かった。全ての国の人種に対応した多言語表記を作ることは難しいので、アジアの国々で話されている言語に絞ることが一番良い方法だと考える。

私たちは八戸の特産品にも注目した。なぜなら、八戸の特産品は生鮮食品が多く、新鮮でおいしいにもかかわらずあまりメジャーでなく、広く人々に知られていないからである。

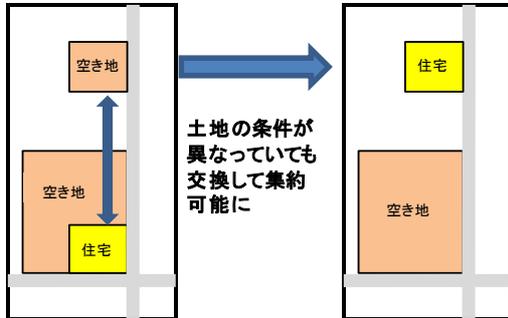
八戸の空き家を低コストでリノベーションし、そこで宿泊施設を営み八戸の特産品・伝統芸能を日本人にはもちろん外国人にも伝え、魅力を知ってもらおう。また、外国人が不便さを感じないように外国語表記や多言語タブレットの導入などを行うことにより、空き家率が減り八戸を訪れる観光客が増えることにつながっていくはずだ。そして、将来的には市全体でその宿泊施設を楽しむことができ、地元の人も観光客もどちらも笑顔になれるような場所ができると考えた。

参考文献：

・不動産住宅情報サイト スマイティ,<https://sumaity.com>.

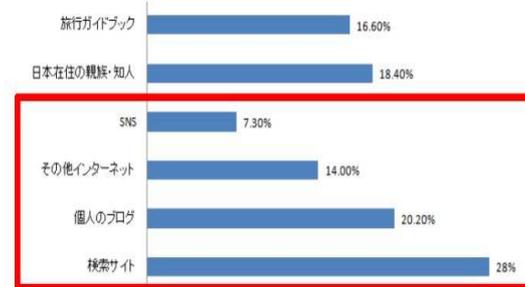
### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）



イメージ図

出発前に得た旅行情報源で役に立ったもの（複数回答）



出典「日本政府観光局(JNTO)」

参考文献) 国土交通省観光庁 訪日外国人の消費動向 平成 26 年次報告書.

アイデアの実現のためには…

1. 空き家を一つの場所に集約し、宿泊施設を営むためにコストを抑えたリノベーションを考える必要がある。現在国土交通省では、点在する空き地や空き家を土地区画整理事業で集約して有効活用する新制度について 2018 年度にも導入する方針を示している。私たちはこの新制度の意見を参考にし、空き家を一点に集中させることができると考えた。移動方法は空き家の近くにある土地を見つけ、その土地と空き家の土地分を交換する。しかし移動させる条件としては角地や道路に面しているといった条件がほぼ同じ土地との交換に限って認められている。

リノベーションに掛かる費用については、プレゼンによりスポンサー企業を探して契約する。国や県又は市の助成を受けたり募金活動により集める。不足分については金融機関等からの借入れで賄い返済については複合施設から得た利益から行うことができる。

2. 空き家の集約、リノベーション完了後、和を基調とした内装にする。そして、外国人を呼び込むために必要な多言語表記が可能なタブレット端末を導入し、外国人向け地図記号使用の観光マップを作成する。外国語が話せるスタッフを呼び込むために外国人に空き家をルームシェアとして貸し出す（賃貸）ことにより家賃が分散され一人の価格が安く抑えられる。また、維持費を差し引いた分は家主の収入としてのメリットになり空き家の提供につながる。

3. すべてのイベントに対応できる施設を宿泊施設土地内に開設する。またイベントに関しては外国人スタッフと観光客と一緒に楽しむイベント企画を組み込んで外国人スタッフが働きやすい環境を作ること成功の鍵となる。

4. 八戸の特産品を使用した料理を振舞うために、朝市などで新鮮な食材を仕入れる。さらに、郷土料理体験教室、えんぶりの舞を披露する、月替わりにイベントを行うに伴い、各 <sup>えんぶり</sup> 組・三社大祭のお囃子や料理の講師を招く。

5. 施設を開業させ、様々な国の観光客を呼び込むためには全世界の人々に見てもらわなければならない。右上のグラフによると外国人はインターネットやスマートフォンで情報を集めていることが分かる。そこで、全世界使用ユーザー数 8 億 2000 万人を超える Instagram を利用する。



毎日宿泊施設の様子を Instagram で投稿する

～投稿内容～

例：「今日は、来てくださった外国人の方々と  
せんべい汁づくり体験をしました！！」

"Today, I experienced rice crackers  
making with foreigners who came!"

# 八戸せんべい汁 # Hachinohe crackers soup



写真提供) 八戸市

例：「今日は、週に1回のりんご風呂の日です。  
ぜひ入りに来て下さいね！！」

"Today is the day of apple bath once a week.

Please do come and join us! ! "

# りんご風呂 # apple bath



写真提供) 津軽南田温泉ホテル・アップルランド

Instagram を開設してからの数日間、コメントや写真だけでは理解しきれない部分をダイレクトメッセージで説明し、観光客の興味・関心が高まるよう工夫する。そして、このアカウントに寄せられたコメントや質問に回答し、ユーザーから寄せられた意見を随時反映させる。また複合施設や八戸市に Wi-Fi SPOT を増やし、外国人がインターネットのしやすい環境を作ることにより Instagram に写真やコメントを投稿しやすくする。これによる宣伝効果は大きい。